

第 51 回 愛媛県教育研究大会

(発表大会)

学習指導案集



令和 6 年 11 月 7 日 (木)

宇和島市立城南中学校

【城南中学校】

○ 受付	9 : 1 0	～	9 : 4 0
○ 授業説明	9 : 4 0	～	9 : 5 0
○ 公開授業	1 0 : 0 0	～	1 0 : 5 0

年・組	教科等	授業者	単元名・教材名	場所
1年生	総合学習	岩城 裕子 梶原 和真 山下 玲奈 竹葉 弘一 山岡 妙	宇和島の魅力発信	1-1 教室 1-2 教室 1-3 教室 8組 英語ルーム
2年1組	道徳	伊手 由紀 揚野 豪恭	行動する建築家 坂 茂	2-1 教室
3年2組	数学	毛利 和麻	相似な図形	数学ルーム

○ 研究協議	1 1 : 0 0	～	1 2 : 0 0
○ 移動・昼食	1 2 : 0 0	～	1 2 : 5 0

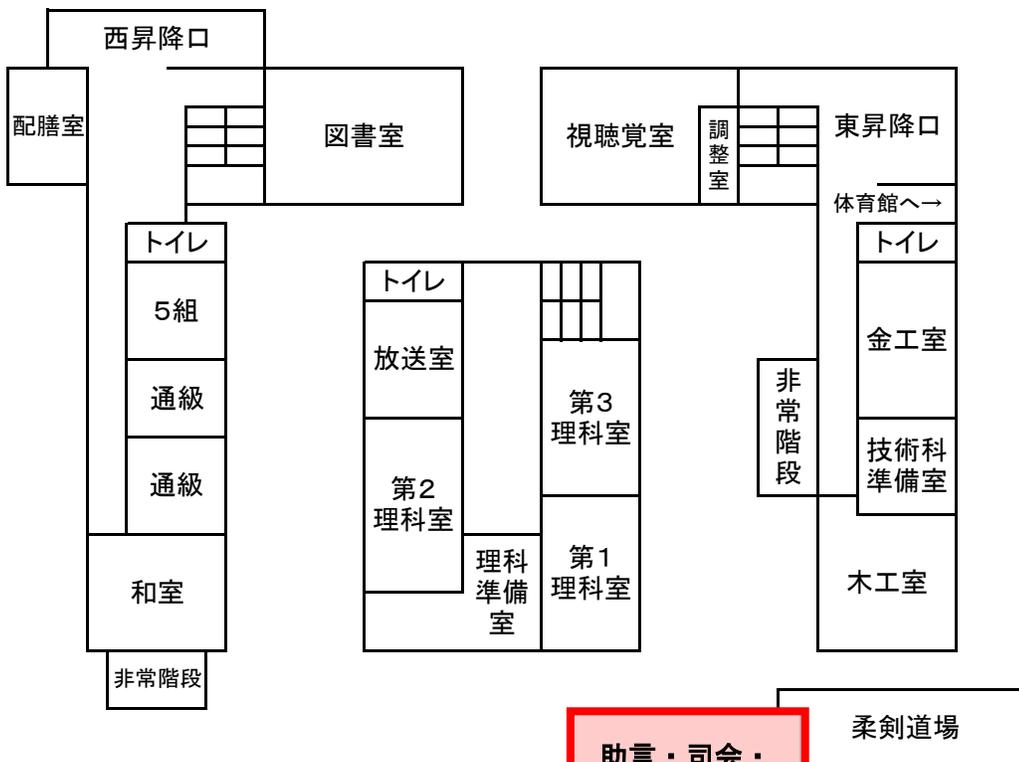
全体会 【城南中学校体育館】

○ 開会式	1 2 : 5 0	～	1 3 : 1 0
○ 研究発表・ディスカッション ・総括	1 3 : 2 0	～	1 5 : 4 5
○ 閉会式	1 5 : 4 5	～	1 5 : 5 0

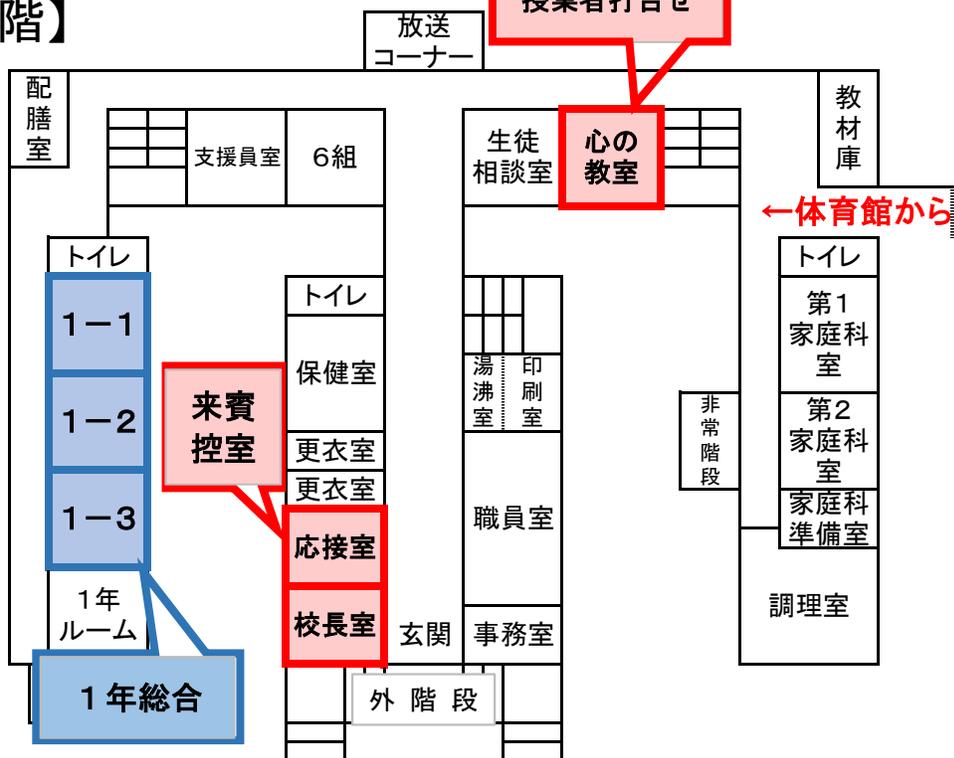
城南中学校会場図

宇和島市立城南中学校

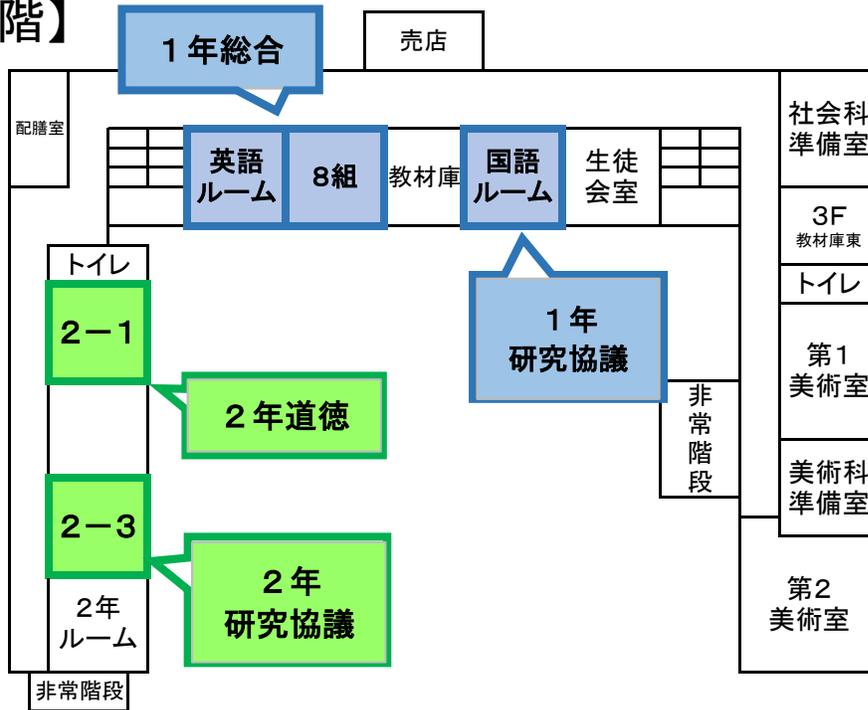
【1階】



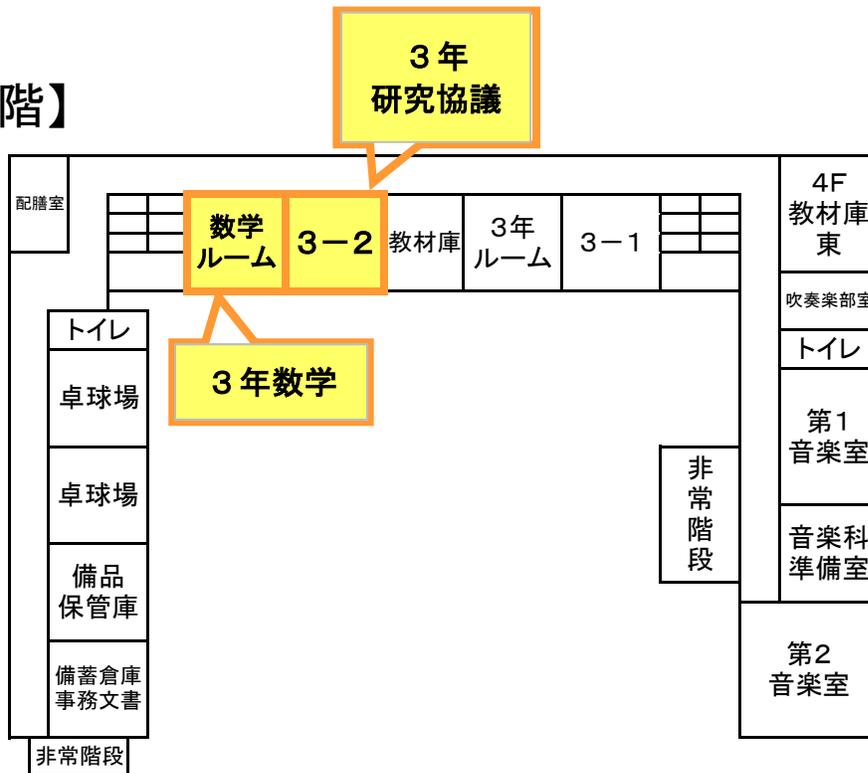
【2階】



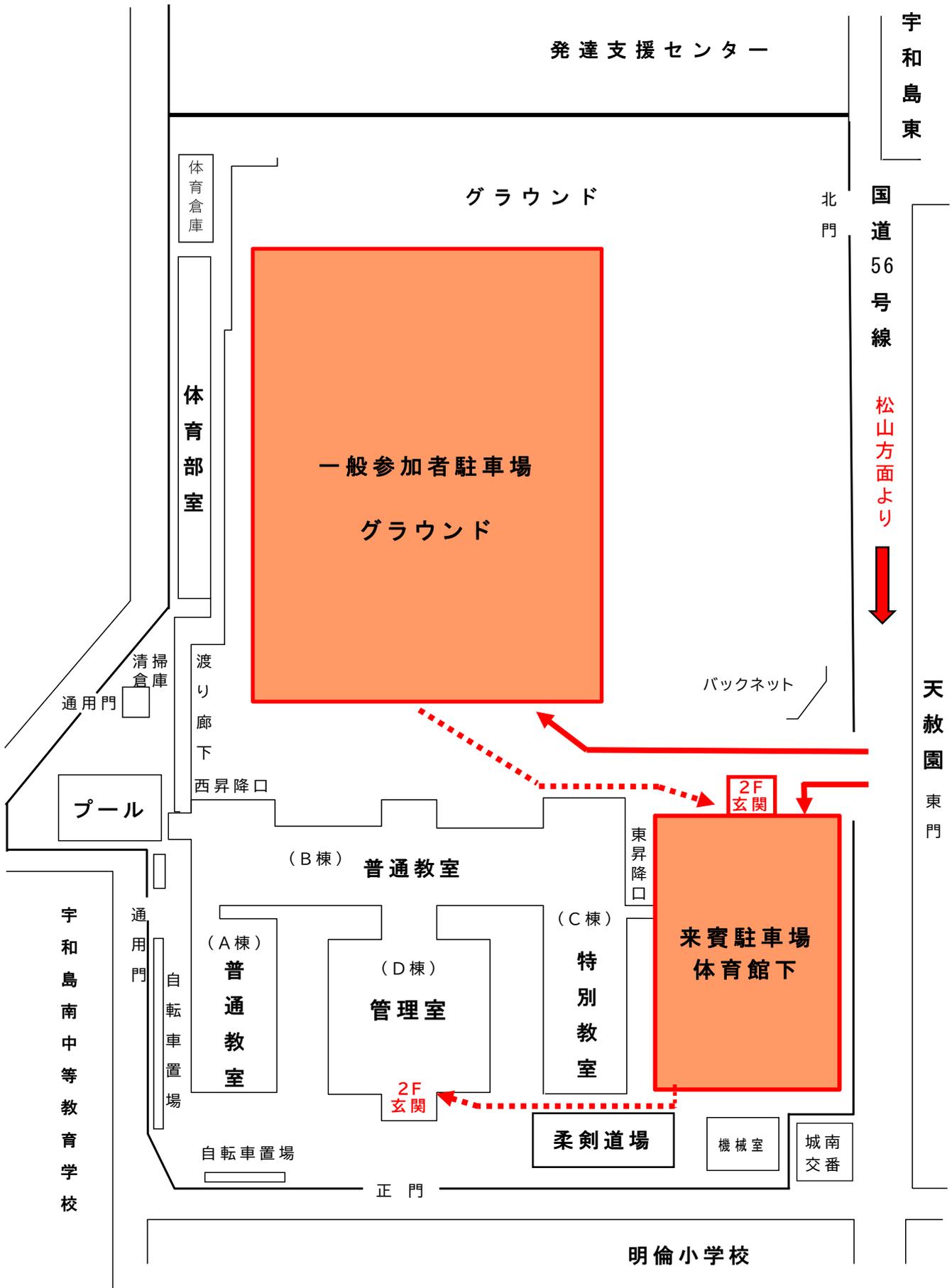
【3階】



【4階】



城南中学校敷地内配置図



宇和島東

国道56号線

松山方面より



天教園東門

宇和島南中等教育学校

明倫小学校

研究推進計画（授業説明資料）

宇和島市立城南中学校

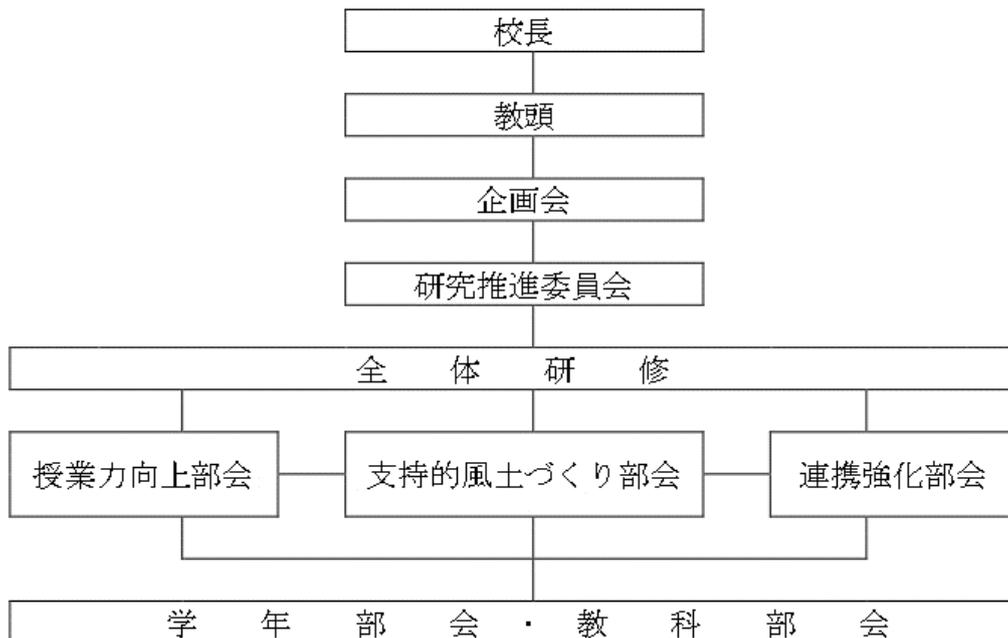
- 1 研究主題 自ら問い、考え、協働的に課題を探究する生徒の育成
- 2 主題設定の理由

本校は宇和島市の中心部に位置し、全校生徒は297名である。校区は、休校や統廃合校を含め12の小校区（公民館）で構成されていて、全て小規模校である。生徒は明るく活動的で、生徒会活動やボランティア活動、地域の行事等に積極的に取り組んでいる。その反面、難しいと思うことに対して消極的で、一人で粘り強く考えることが苦手な生徒が多い。また、コミュニケーションをとることが苦手で、良好な人間関係を築けず悩んでいる生徒もいる。

今、私たちの目の前にいる生徒たちが生きる社会は、「Society5.0」の到来やグローバル化の進展など、多様化や複雑化が加速度的に進み、予測困難な社会に向かっていくと予想されている。そこで学習指導要領には、生徒たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることなどが学校教育に求められていると明記されている。一方、生徒たちが抱える問題として不登校やいじめが挙げられ、生徒たちがともに活動し生活する学校で、人間関係に起因した様々なトラブルが起きている。その背景には、学校でも地域でも、豊かなコミュニケーションを通して、良好な人間関係を構築する体験が少なくなってきたという現状がある。

学校生活の中で、生徒同士あるいは生徒と教師が共有する時間が最も長いのは授業である。つまり、生徒の生きる力を育むための基盤となるのは授業である。生徒が他者と共生し、ウェルビーイングの深化を図るためには、授業の中で自他ともに新たな一面に出会い、認め合い、協働して課題を解決する場を設定することが必要である。そこで、自ら問いを見いだすことができるような単元や授業モデルを確立し、その解決のために協働して考える場を設定すれば、よりよい解を導く喜びを味わわせることができると考えた。校内で組織した3つの部会が連携して実践と検証を繰り返せば、予測困難な社会にしなやかに対応し、自分たちの地域そして日本や世界をよくしていきたいと考える、持続可能な社会の創り手を育成することにつながると考え、本主題を設定した。

3 研究推進体制



4 研究の仮説

- (1) 生徒自らが問いを立てる場面を設定し、対話的な状況を引き出す支援を工夫すれば、協働してよりよい解を見いだすことができ、考えを広げ深める力が育つであろう。

(授業力向上部会)

- (2) 全ての教育活動において、他者と学び合う場面を意図的に設定し重視すれば、共に学ぶ喜びを実感することができ、協働的に学ぼうとする生徒が育つであろう。

(支持的風土づくり部会)

- (3) 家庭や地域、校区の小学校との連携を図り、多様な他者と協働する体験的な活動を充実させたり学びの連続性を確保したりすれば、学びに向かう力が育つであろう。

(連携強化部会)

5 研究の内容

- (1) 深い学びを実現させるための授業改善

- | | | |
|---|-------------------------|----------|
| ア | 生徒の問いを軸にした授業の実践 | (Lア, Nオ) |
| イ | 生徒一人一人の学びの到達度の視覚化と共有の工夫 | (Cウ, Lウ) |
| ウ | 聞く力と話す力を培う言語活動の工夫 | (Mア) |

(2) 支持的風土の醸成

ア 多様な見方・考え方に気付かせる工夫 (N エ)

イ 自己有用感の醸成 (G カ, L エ)

(3) 家庭や地域、小学校との連携体制の構築

ア 地域の人材や資源の活用 (J ウ)

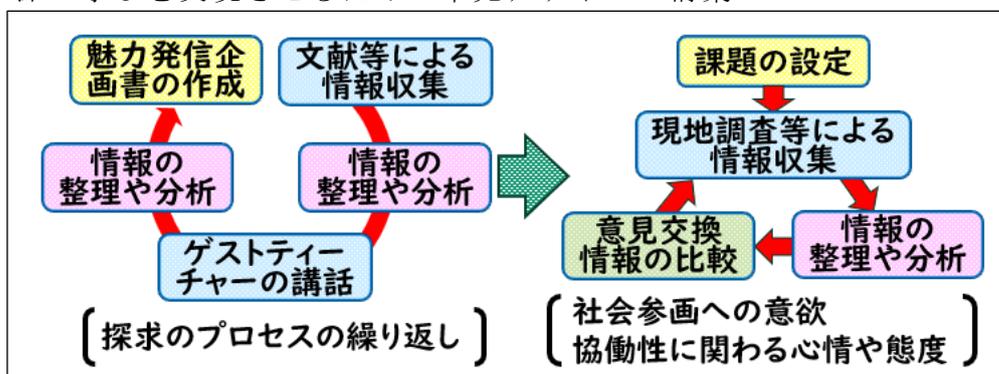
イ 生徒の学びを発信させる工夫 (O ア)

ウ ICTを効果的に活用した交流の促進 (O ウ)

6 公開授業について

(1) 1年生：総合的な学習の時間「宇和島の魅力発信」

ア 深い学びを実現させるための単元デザインの構築



生徒自らが宇和島の魅力を発信するために、文献等で調べたりゲストティーチャーから学んだりして、知識や技能の探究のプロセスを繰り返してきた。魅力発信企画書を作成し課題の設定をした後、情報の収集や整理・分析、意見交換を繰り返していく中で、常に問いを持ち、自ら考えたり他と協働したりして課題を探究することで、社会参画への意欲や協働性に関わる心情や態度を身に付けさせることを目指している。

イ 協働的に課題を探究させるための視点カードの活用

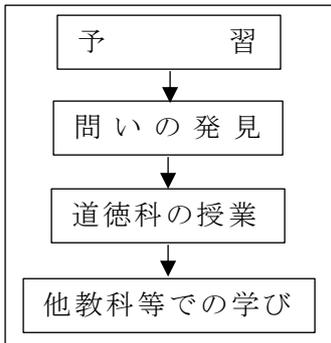
宇和島の魅力を発信するための作品づくりをする時や、他の班の作品を見たり聞いたりする時に、常に右の3つの視点を意識させるため視点カードを活用させてきた。



本日の授業でも、このカードを使うことで作品の修正の具体的な方法やその根拠を明らかにさせ、協働的に課題を探究させていきたいと考えている。

(2) 2年生：道徳科「行動する建築家 坂 茂」

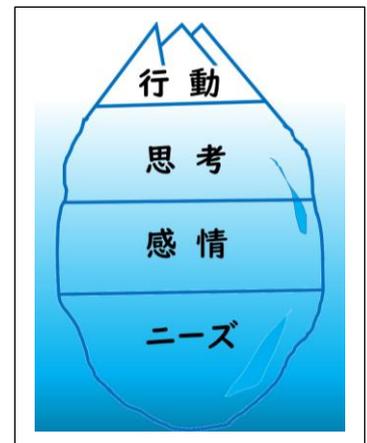
ア 道徳科における授業モデルの確立



月曜日の朝学習の時間を使って、その週に実施される道徳の内容の予習を行っている。資料を読み登場人物の心情を理解したうえで、一人一人に問いを立てさせている。教師は提出された予習シートを見て、全体で話し合うのにふさわしい課題を設定し授業に臨んでいる。授業では自分たちで立てた問いについて班ごとに考え、それを全体で共有し、道徳的な価値が高められるよう教師がファシリテートしていく。振り返りでは個人が発展的な問いについて考え、他教科等での新たな学びにつなげていくという流れである。

イ 道徳的価値を深く自覚させるための冰山モデルの活用

冰山に例えると、水面から出ている部分は目に見える「行動」であり、水面下にはその行動を支える「思考」や「感情」が潜んでいる。そしてさらに奥深いところに、大切にしたい思いや願いである「ニーズ」があり、そこに授業で深く捉えさせたい道徳的価値を内包していると考えている。そこで、道徳科の授業では「思考」や「感情」だけでなく「ニーズ」についても考えさせるために、

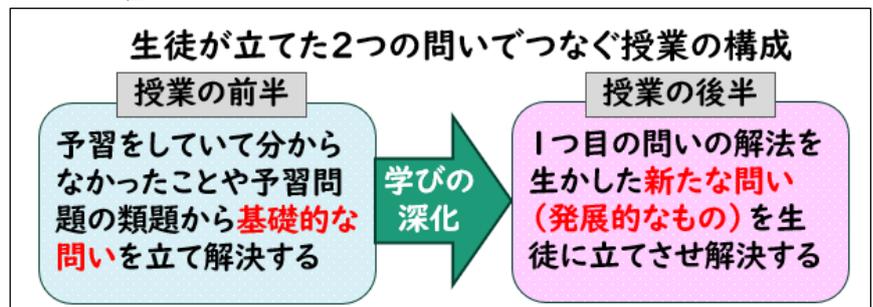


ワークシートに冰山モデルを示しまとめさせている。また、感情カードやニーズカードを活用することで、多様な見方や考え方に気づき、生徒一人一人がこれからの自分の生き方について深く考えることができる授業の実践を目指している。

(3) 3年生：数学科「図形と相似」

ア 数学科における授業モデルの確立

数学科においても、予習から始まる授業モデルを実践している。(後述の指導案参照)予習の問題は教師が指



定しその動画を見ながら解くことで、分からないことを明確にして問いの発見をさせている。授業は2つの問いで構成している。1つ目は基礎的な問いで、予習問題

第1学年総合的な学習の時間学習指導案

令和6年11月7日(木) 10:00~10:50

指導者 水産業(真珠養殖)講座 岩城 裕子(1年1組教室)
 歴史・郷土芸能講座 梶原 和真(1年2組教室)
 食文化講座 山下 玲奈(1年3組教室)
 水産業(魚養殖)講座 山岡 妙(英語ルーム)
 農業講座 山岡 一孝(8組教室)

1 単元名 「宇和島の魅力発信」

2 単元の目標

自分たちが住む宇和島の歴史、郷土芸能、食文化、農業、水産業について調べる活動を通して、それを支える人々の思いに気付き、宇和島のよさや課題、自分たちとの関わりについて理解することができる。また、それらの学びを生かして宇和島のためにできることを考えるとともに、その魅力について発信することができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 宇和島の特色や人々の思いに気付き、宇和島のよさや課題を理解している。 ② 調べ学習やゲストティーチャーの講義から、宇和島の情報を多く収集し、それらを整理し、まとめる技能を身に付けている。 ③ 宇和島の魅力を発信することは、課題を探究的に学習してきたことの成果であることに気付き、工夫して発信することで学びを生かすことができる。	① 宇和島の魅力を発信するためには、どのような取組をすればよいか課題を設定し、それを具体化する計画を立てることができる。 ② 課題の解決に必要な情報を効果的な手段を選択して収集している。 ③ 課題の解決に向けて、情報を選択したり、比較したり、関連付けたりして多角的・多面的に考えることができる。 ④ 宇和島の魅力を発信するために様々な方法を用いて、興味・関心が持てるようにまとめ、表現することができる。	① 課題を解決するために、自分とは異なる意見や他者の考えを受け入れようとしている。 ② 宇和島の魅力を発信する活動を通して、自他の意見や考えのよさを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③ 宇和島の魅力を発信することや宇和島の問題を解決する方法を考えることで、宇和島のためにできることを考えようとしている。

4 指導観

(1) ねらいや指導内容について

宇和島市は、南予地方の中心としての役割を担ってきた歴史ある城下町である。産業面では、農業や水産業などの第一次産業が地域の経済を支えてきた。しかし近年は、多くの若者が仕事を求めて都市に移り住むことで少子高齢化が進んだ結果、地域の経済は低迷し、地域社会の維持が難しくなっている。そこで、宇和島市では「一人一人のウェルビーイングと包摂的で持続可能な地域社会の共創」を基本理念に掲げ、教育活動に取り組んでいる。本校でもその理念を具現化できるように、他教科との関連を図りながら総合的な学習の時間を展開したいと考えている。

本単元は、宇和島の歴史や郷土芸能、食文化、農業や水産業の特色を調査する中で、それぞれにはよさや課題があり、支える人々の思いがあることを理解させることから始める。さらに地域の課題をどのように解決していけばいいのか探究する活動を通して、宇和島の魅力を発信

させていきたいと考えている。地域と自分たちとの関わりについて考えていく中で、常に問いを持ち、正解のない課題に対して協働してよりよい解を探究していく力を育てることが本単元のねらいである。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本校区は、休校や統廃合校を含め 12 の小学校区で構成されていて全て小規模校である。各小学校では総合的な学習の時間で、防災や環境保全など地域の特色に応じた内容について学習を進めており、居住地域に対する知識や理解は身に付いていると捉えている。そのため、これらの学びを生かした学習を進めていくことが効果的である。また、居住地域だけではなく宇和島に対しても肯定的な考えを持つ生徒が多いことが、以下の表から明らかである。既習知識や地域への愛着を基盤にして、本単元を展開していきたい。

質問	肯定的回答
①宇和島は好きですか。	97%
②宇和島のために、自分にできることはしていきたいですか。	99%
③宇和島の課題や出来事に関心がありますか。	92%
④地域のお祭りに参加したことはありますか。	85%

一方で、宇和島の魅力について生徒に聞いたところ、「城が立派」「海がきれい」「みかんがおいしい」など一義的な捉え方しかできていないことが分かった。しかも、その内容は表面的で、様々な事象を結び付けて考えることができていない生徒が多い。そこで、宇和島について考えを広げ深めさせるために、ゲストティーチャーを招いたり現地に調査に行ったりして、様々な学びの場を設定してきた。また、次々に問いを追い解決していく経験を積み重ねさせることで、学びの達成感を味わわせていきたい。これらのことが、次世代の地域の担い手としての資質・能力の育成につながっていくと考える。

(3) 教材の特質や活用方法について

本単元は2つの小単元で探究課題を構成している。

初めの単元では、宇和島の特色を、多面的・多角的に理解するために、文献資料やインターネットを活用して調べ学習を行った。また、ゲストティーチャーを招き講義を受けることで、地域の人々の思いに気付き、宇和島の魅力や課題、自分たちとの関わりについて考えた。収集した情報や講義の内容を整理・分析し、生徒の「問い」や「思い」から自分の発信したいテーマを決め、それに関する魅力発信企画書を作成した。学級内で作った小集団で魅力発信企画書について意見交換を行うことで、他者の意見と比較したり、関連付けたりして、新たな考えを発見し、よりよい魅力発信企画書の作成を行った。

次の単元では、一人一人の魅力発信企画書のテーマをもとに5つの講座に分かれ、調べたい内容を焦点化させた。それをもとに、各講座で宇和島の魅力を発信するための方法を検討し、より有効な方法を決めさせたい。さらに、講座内でいくつかの班に分かれ、そこでの意見交換をもとに、必要に応じて現地調査を実施したり、ゲストティーチャーから助言を受けたりしながら、協働して課題を探究していくという展開である。このようにして、学びの成果を宇和島の魅力を発信する作品という形で完成させる中で、地域への思いや考えを創造させたい。この作品を校区内の小学校を含めた地域に発信させ、宇和島の魅力や地域への思いを共有することで、次の学びにつなげていきたいと考える。

5 研究主題との関わり

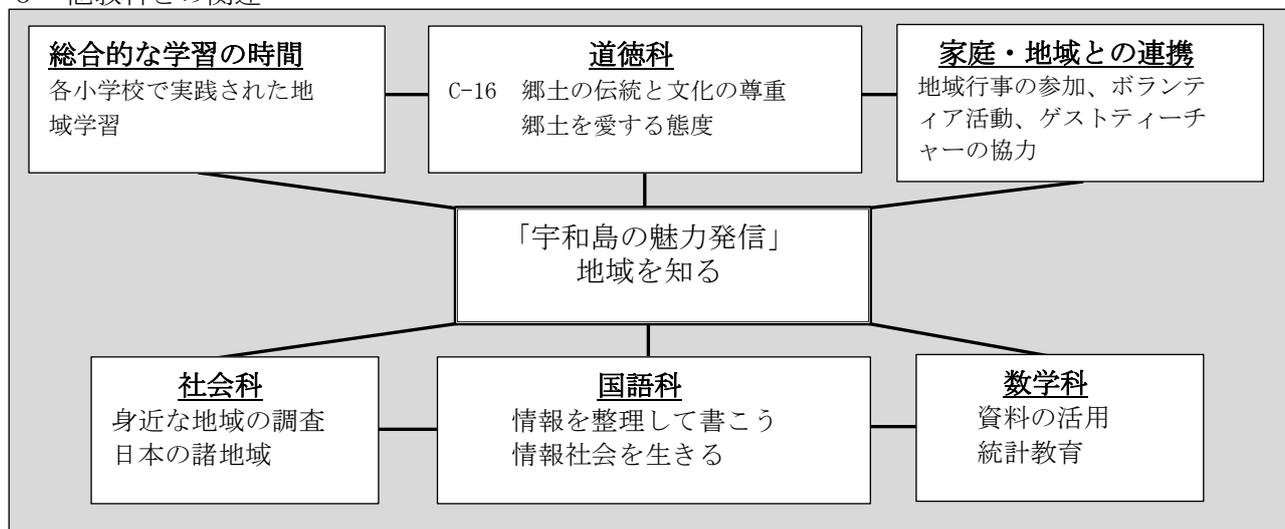
研究主題
自ら問い、考え、協働的に課題を探究する生徒の育成

本単元では探究課題を「宇和島の魅力発信」としている。生徒自らが宇和島の魅力を発信するために文献資料等で調べたりゲストティーチャーから学んだりして、知識や技能の探究のプロセスを繰り返していく。魅力発信企画書の作成やそれをもとにした宇和島の魅力発信の発表会の実施に向けて、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究的な学習が展開される中で、常に問いを持ち、考えることで総合的な学習の時間における資質・能力が育成されていくと考える。また、宇和島の魅力発信に対する企画の立案や発表会に向けて、他者との意見交換や情報の比較な

どを行う中で、社会参画に関わることや、協働性に関わる心情や態度を身に付けさせることを目指している。

以上のように、探究課題とその解決を具体化した「宇和島の魅力発信」を通して、本校の研究主題に迫りたい。

6 他教科との関連



7 指導と評価の計画（全 38 時間）【本時 30/38】

小単元（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
《小単元 1》 宇和島の特色を理解しよう。 (18 時間)	【課題の設定】 ○ オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しを持つ。 課題意識を持つ。 				
	宇和島の特色は何か。 【情報の収集①】 <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの持っている知識を出し合い、ウェビングマップで共有する。 【情報の収集②】 <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲストティーチャーを招き、宇和島の特色についての講義を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> 講義の内容 <ul style="list-style-type: none"> 歴史と文化 郷土芸能（お槍振り） 食文化（じゃこてん） 農業（柑橘） 水産業（マダイ養殖、真珠養殖） 他の地域に誇れるものだという視点で情報を集める。 	①			ワークシート (ウェビングマップ)
			②	②	ワークシート

	<p>【整理・分析】</p> <p>○ 収集した情報を、テーマごとに分類・整理する。</p> <p>【まとめ・表現】</p> <p>○ 分類した地域の「特色」から自分の発信したい宇和島の魅力についてテーマを決め、魅力発信企画書を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力を発信するためにはどのような取組をすればよいか考える。 <p>○ 各学級で魅力発信企画書について意見交換し、よりよいものに仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班で魅力発信企画書について意見交換を行う。 ・ 他者の意見と比較したり、関連付けたりして、新たな考えを発見する。 ・ 各教科で実践している話合いのマニュアルを活用し、自分の考えを深める。 ・ 学級全体で発表する。 		③		ワークシート
<p>《小単元2》</p> <p>課題を解決するために調査し、それをまとめ魅力を発信しよう。</p> <p>(20 時間)</p>	<p>【課題の設定】</p> <p>○ 魅力発信企画書をもとに講座編成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたい内容を焦点化する。また、宇和島の魅力を発信する方法を考える。 		①	①	魅力発信企画書
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">宇和島の魅力を発信しよう。</p> <p>【情報の収集・整理】</p> <p>○ 調査活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に関わっている地域の人に聞き取り調査をしたり、現地調査を行ったりする。 ・ 調べたことをワークシートに整理する。 <p>【まとめ・表現①】</p> <p>○ 3つの視点カードを活用して作品を完成させる。</p>		②	②	① ワークシート
			④	②	作品

(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講座内で「宇和島の魅力発信」発表会を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの作品を見合い、3つの視点カードを活用して、意見交換をする。 ・ 他の意見を参考に作品を修正し、完成させる。 <p>【まとめ・発信②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他の講座で「宇和島の魅力発信」発表会を実施する。 ○ 校区内の小学校を含めた地域に発信する。 	③	④	③	作品
------	---	---	---	---	----

8 本時の指導

(1) 目標

自分の班の作品について班員と話し合ったり、他の班からの質問や意見を参考にしたりして作品を修正し、よりよいものを創りあげようとする態度を身に付ける。また、他の班の作品に対して、質問したり意見を述べたりして、協働して課題を探究する姿勢を身に付ける。

(2) 準備物

話し合いマニュアル、魅力発信企画書、視点カード、作品

(3) 主体的・対話的で深い学びを促す手立て

話し合いマニュアルの活用、学習形態の工夫、視点カードの活用、教師の関わり

(4) 評価規準 《主体的に学習に取り組む態度》

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の班の作品について、他の班からの意見をもとに、新たな問いを立てよりよく修正しようとしている。 ○ 他の班の作品に対して、積極的に質問や意見を述べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の班の作品について、他の班からの意見をもとに、作品を修正しようとしている。 ○ 他の班の作品に対して、自分なりの意見を述べようとしている。

(5) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点	◎評価規準 (評価方法)
導入	1 前時までの活動を振り返る。 (全体) 2 めあてを確認する。 (全体)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の内容を確認し、本時の活動の見通しを持たせる。 	
	質問をし合ったり意見交換をしたりして、互いによりよい作品を完成させよう。		

展開	<p>3 話し合いをする際の留意点を確認する。(全体)</p> <p>4 発表を聞き、質問し合ったり意見交換をしたりする。(全体)</p> <p>5 他の班の意見をもとに作品の修正点を班で共有し今後の方向性について考える。(小集団)</p>	<p>○ 活発な話し合いになるように役割分担や話し合いマニュアルの活用法を確認する。</p> <p>○ 各班に、作品の紹介だけでなく魅力発信のための工夫点や地域の魅力をさらに引き出すアイデアについても発表するようにさせる。</p> <p>○ 3つの視点を意識しながら聞き、視点ごとに意見交換をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見て分かりやすいか。 ・ 聞いてわかりやすいか。 ・ 地域への思いが伝わってきたか。 <p>○ 修正の具体的な方法とその根拠を明らかにさせる。</p>	<p>◎ 他の班の作品に対して積極的に質問や意見を述べようとしているか。(観察)</p> <p>◎ 自分の班の作品を他の班からの意見をもとに新たな問いを立てよりよく修正しようとしているか。(シート)</p>
まとめ	<p>6 本時のまとめをする。(個人)</p>	<p>○ 本時の学習の振り返りをさせる。</p>	<p>◎ 協働して課題を探究することができたか。(シート)</p>

9 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ 班での話し合い活動や全体での意見交換を行うことで、様々な見方や考え方に気付き、それらを作品づくりに生かすことができる。
- ・ 新たな問いを立てそれを解決することで、自分の考えを深めることができる。

【協働的に課題を探究している様子】

- ・ 視点カードを活用することで課題解決のための見通しを持ち、班員と協働してよりよい作品づくりを探究することができる。
- ・ 他者の意見を尊重し多様な考えを認めることで、互いに考えを深めることができる。

10 研究の視点

- ・ 意見交換を通して生徒に問いを立てさせることは、課題を自分事として捉え、考えを深めさせることにつながったか。

⎵

- 〔 K-ア 学習内容と日常生活・社会とのつながりを考えさせる工夫
- 〔 L-ア 子ども自身が立てた学習課題
- 〔 O-ア 学びの成果を地域などで発信したり実践したりさせる工夫

- ・ 話し合い活動における視点カードの活用や教師の働き掛けは、協働的な学びの充実に役立てられたか。

⎵

- 〔 N-ウ 子どもの考えをゆさぶる働き掛けの工夫
- 〔 N-エ 多様な見方・考え方に気付かせる話し合い活動の工夫

第2学年1組 道徳科学習指導案

令和6年11月7日(木) 10:00~10:50

指導者 T1 伊手 由紀
T2 揚野 豪恭

1 主題名 社会のためにできること

【内容項目 C-12 (社会参画、公共の精神)】

2 ねらい 社会参画の意識を高め、公共の精神を持ってよりよい社会の実現のために貢献しようとする態度を育む。

3 教材名 「行動する建築家 坂 茂」 (中学道徳「あすを生きる2」)

4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

「社会参画の意識」とは、共同生活を営む人々の集団である社会の一員として、その社会における様々な計画に積極的に関わろうとすることである。個人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが大事になる。自分が生きている身の回りを含めた社会に関わることの意義の理解の下に、実際に関わっていこうとする態度を育てていくことが求められる。そこで、自己中心的な言動を控え、社会全体の利益のために尽くす公共の精神を養い、積極的に社会に関わっていこうとする意欲を持たせるために本主題を設定した。

指導に当たっては、「建築家は社会に対して何ができるか。」という登場人物の問いを自分の問いとして考えさせ、総合的な学習の時間や生徒会活動等を通して得た学びを生かしながら、自分にできることを主体的に考えていこうとする態度を育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

中学校生活2年目となり、委員、係等の役割を果たしたり、学校や地域をよりよくするためにボランティア活動に参加したりして、自分のこと以外にも目を向けることができつつある。その反面、他者に対する配慮を欠き、公の場で自己中心的な言動をとってしまう場面も見られる。しかし、自己中心的で自分勝手な言動をよくないと思う心が内面には十分あり、誰もが望むよりよい社会の実現について純粋に考えようとする姿勢も見られる。

また、総合的な学習の時間で防災学習に取り組んでおり、災害時に自分の身を守る方法や救命救助の方法、避難所での過ごし方等について、ワークショップや体験活動を通して学習を積み重ねている。そのため、世界中の災害現場を飛び回り、被災地の現状に寄り添った坂茂さんの活動は理解しやすいと考えられる。「建築家は社会に対して何ができるか。」という問いのもとに行動している坂茂さんの取組から、自分ならどんなことができるかを具体的に考えることで、社会参画への意識を高めたいと考える。

本校では、道徳科の学習展開について研究を進めており、昨年度から全校的な取組として朝学習を活用した道徳科の予習を行っている。本学年では、予習で資料の内容を理解し、問いを立てさせ、話し合い活動を進めてきた。さらに振り返りに重点を置いて学習することで深い学びの実現に努めてきた。そして、道徳科以外の教科でもこの展開を取り入れている。こうした活動から、主体的に話し合い、協働して課題を探究しようとする生徒が増えつつある。

(3) 教材の特質や活用方法について

建築家の坂茂さんは、東日本大震災で被災した地域の避難所を訪れたが、避難所はプライバシーの配慮がされにくく、精神的に参っている人たちを見て、紙管を使った間仕切りシステムを考案した。その後も「建築家は社会に対して何ができるか。」と自分に問い掛けながら世界各地の被災地で支援活動に取り組んでいる。坂茂さんの自分の職業に対する考え方や社会全体の利益を大切にしようとする生き方に触れることによって、社会のために貢献しようとする態度を養うのに適した教材である。活用にあたっては、坂茂さんの言動を共感的に捉えながら、社

会的な責任を果たすためにどのような行動をとることが望ましいかを主体的に考えられるようにする。よりよい社会の担い手の一人として、中学生という立場でどんなことができるかを考えることで、課題を自分事として捉え、主体的に考える態度を育てていきたい。

様々な意見に対してカードを使って話し合ったり、新たな学びにつながるような振り返りを行ったりすることで、生徒の考えをさらに深めることにつなげていきたい。

5 研究主題との関わり

<p>研究主題</p> <p>自ら問い、考え、協働的に課題を探究する生徒の育成</p>

道徳科の教材は、互いに協力することで社会的な課題を解決することや人間の生き方から学ぶこと等、様々な内容が提示されている。これまでは、教師側から提示された内容を受動的に考えることが多かった。しかし、与えられた課題を考えるだけでなく、生徒が気付いた課題を他者と協働して解決しようとする中で、学びを深めることができると考える。そこで、予習を行って教材の内容を把握し、問いを持って授業に臨ませている。さらに、話し合いや互いの考えを共有する場を工夫して、登場人物のニーズ（大切にしたい願いや思い）を考えたり、自身の考えを深めるための振り返りを確実にしたりすることで研究主題に迫りたい。

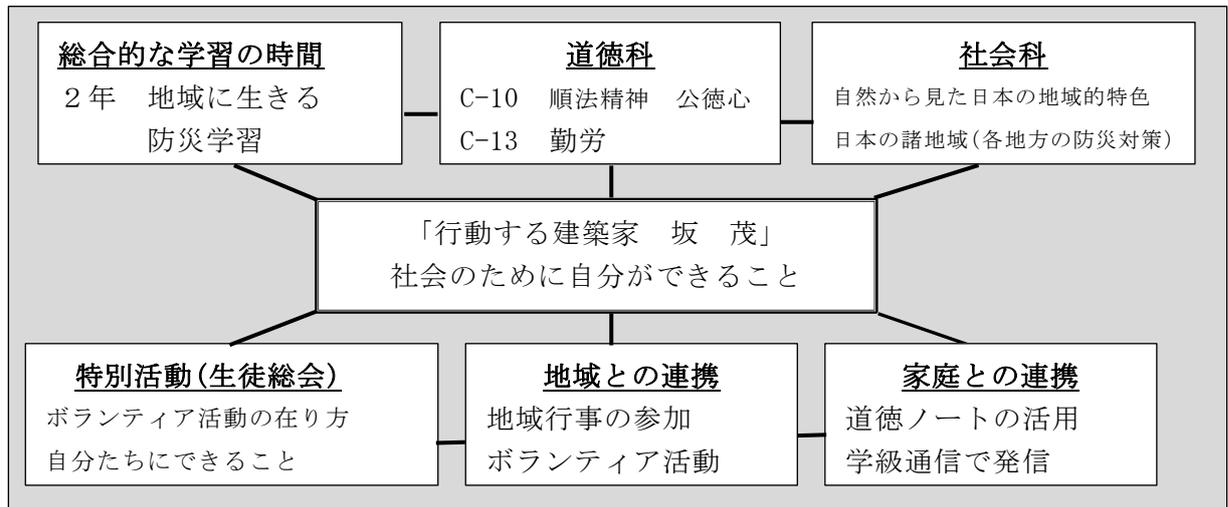
6 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 多 <input checked="" type="checkbox"/> 自
予習	<p>1 教材の範読を聞く。</p> <p>2 予習カードから坂さんの活動について理解する。 (全体)</p> <p>3 坂さんの活動について考える問いを立て、提出する。 (個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 坂さんは、どのような思いで被災地を支援しているのか。 坂さんの建築はどんなところが被災地に役立っているのか。 坂さんが被災地の建築で大切にしていることは、どんなことか。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容が理解できるように予習カードを作成する。 坂さんのニーズについて話し合える課題が作れるような声掛けをする。
導入	<p>4 課題を設定する。 全体で話し合いたい本時の課題を考える。 (全体)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 予習から代表的な問いを紹介する。 話し合う本時の課題をしっかりと確認させる。
展開	<p>予想される課題 坂さんは、どのような思いで被災地を支援しているのか。</p>		
	<p>5 坂さんのニーズ(大切にしたい願いや思い)について考え、問いについて意見を交換する。 (小集団)</p> <p>6 他の班の意見について、カードを用いて意見交換をする。 (全体)</p>	<p>「坂さんの思考や感情」</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災地の人々を助けたい。 互いに気持ちよく過ごせる空間を作りたい。 被災した方々が体を休める場所を作りたい。 <p>「坂さんのニーズ(願いや思い)」</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築家として社会に貢献したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 坂さんの「行動」「思考や感情」「ニーズ」について、考えやすいように様式を提示しまとめさせる。 <input checked="" type="checkbox"/> 坂さんのニーズについて真剣に考え、問いについて意欲的に話し合っている。 教師はファシリテーターとして、生徒の意見を引き出す。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の班の意見を聞いて、価値を多面的・多角的に捉えている。

	<p style="text-align: center;">自分にできることは何だろうか。</p> <p>7 振り返りカードを活用し、新たな課題について考える。 (個人) 自分にできることや自分のニーズ(願いや思い)を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で・・・ ・ 学校で・・・ ・ 将来は・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の祭りや清掃活動等に意欲的に参加する。 ・ 朝ボランティアの活動を充実させる。 ・ 自分の役割に責任を持って果たす。 ・ 困っている人に気づき、手助けをする。 ・ 将来、就職したときに、自分の仕事がどのように社会とつながっているかを考える。 	<p>多 意見の交流をふまえて、自分の考えを形成しようとしている。</p>
終末	<p>8 カードを用いて振り返りを共有し、自分が選ばなかった場面についても考える。 (全体)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカードを紹介する。 <p>自 他者の振り返りを尊重しながら、自分の考えを深めようとしている。</p>

多: 物事を多面的・多角的に考えている様子 自: 道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子

7 他の教育活動との関連



8 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ 小集団での話し合い活動や全体での共有を行うことで様々な考え方を尊重しながら、自分の考えを深めることができている。
- ・ 振り返りで自分の考えをさらに深めようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・ 登場人物の行動や思考・感情について理解し、坂さんのニーズ(願いや思い)について考えている。
- ・ 自分にできることやニーズ(願いや思い)について主体的に考えている。

9 研究の視点

【生徒の考えを深めさせるための指導の工夫】

- ・ 予習から始まる授業デザインにより、課題を自分事として捉え、考えを深めさせることができたか。

(k-ア 学習内容と日常生活・社会とのつながりを考えさせる工夫
 L-ア 子ども自身が立てた学習課題
 M-ウ 子ども自身の言葉でのまとめや表現)

- ・ カードの活用や振り返りを用いた意見の共有の仕方は、協働的な学びの充実に有効か。

(N-ウ 子どもの考えをゆさぶる働き掛けの工夫
 N-エ 多様な見方・考え方に気付かせる話し合い活動の工夫)

1 単元名 図形と相似

2 単元の目標

- 図形の相似についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 【知識・技能】
- 図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する。 【思考・判断・表現】
- 図形の相似について、数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認めよりよく問題解決したりしようとする態度を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。 ② 基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解している。	① 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ② 相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	① 相似な図形の性質を見いだそうとしている。 ② 図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

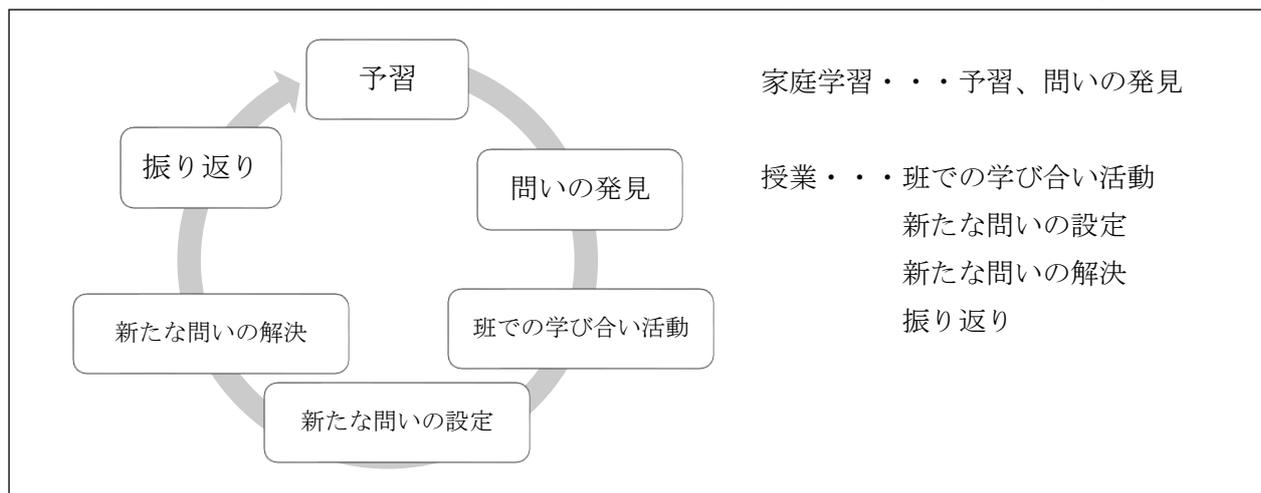
4 指導観

(1) ねらいや指導内容について

本時の指導は、学習指導要領B(1)「図形の相似」の中のイの(ウ)『相似な図形の性質を具体的な場面で活用する』に基づき展開している。身の回りには数多くの建築物があるが、その設計図は全て縮図である。そのため、建築物の高さや広大な敷地の面積や長さを相似な図形の考え方をを用いて計測する場面は多く存在する。これまで学習してきた相似の考え方をを使って、実測できない距離や高さを求めることにより、実生活との結び付きを実感させたい。また、生徒自らが、実際の距離や高さをどのようにして求めるのか試行錯誤しながら考えることを通して、相似についての興味・関心を高め、その有用性に気付かせる学習を展開していきたい。

本時は、教科書の例題を基に相似な図形の性質により、2地点間の距離を、縮図を使って間接的に求める方法について考察し、城南中学校の校舎の高さを求めることに挑戦する。相似条件の「2組の角がそれぞれ等しい」に当てはめれば、相似な図形がかけることに気付かせる。また、既習事項から自分で考えたり、友人と考えを深めたりしながら、課題を解決することを目指したい。授業の後半では、それぞれが新たな問いを立て、それらを協働的に解決していくことで深い学びを実現していきたい。

数学科をはじめとする各教科の学習では、以下のような授業デザインを行っている。



(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

授業では、粘り強く課題に取り組んだり、積極的に学び合い活動を行ったりすることができる。しかし、数学に対して苦手意識を持っている生徒が多く、今年度行われた全国学力・学習状況調査の結果を見ると、4つの領域の中で「図形」の習熟度が最も低いことが分かった。また、評価の観点では「思考・判断・表現」が、全国平均を大きく下回る結果だった。さらに、知識・技能についても、正答率に個人差があり、学力の二極化が顕著である。そこで、今年度実施している習熟度別にした少人数指導を最大限に生かして、個別最適な学びを実現していきたいと考えている。授業で身に付けたい力は何かを生徒自身が意識して、「～ができるようになる」「～が説明できるようになる」など、授業での「めあて」を自分で設定させることで、学びの達成感が得られるように工夫している。また、生徒自身が学習の進捗状況を把握するために、学習ログを付け、それを共有することで、協働して学習する仕組みをつくっている。

(3) 教材の特質や活用方法について

小学校第6学年では、縮図や拡大図について学習している。中学校第1学年では、図形の作図や移動について学び、さらに扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体および球の表面積と体積が求められるようになってきている。第2学年では、三角形の合同条件を用いて三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることを学習している。そして本学年では、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめ、数学的に推論することの必要性と意味および方法の理解を深め、論理的に考察し表現する能力を伸ばすことをねらっている。本単元は、基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにするのに適した内容である。

本校の研究推進の「深い学び」へのアプローチとしては、数学的な見方・考え方を働かせることが重要である。生徒自らが問いを持ち、その解決に向けて見通しを持つ。学び合いの中で考えたことを、数学的な表現を用いて説明し、伝え合う機会を設け、お互いの考えをよりよいものにし、新たな問いを見いだしたりすることができるようにしていきたい。

5 研究主題との関わり

研究主題

自ら問い、考え、協働的に課題を探究する生徒の育成

本校では、研究推進の一つとして各教科をはじめ全ての教育活動において、生徒に問いを立てさせる機会を設けている。そこで数学科では、予習に軸足を置き、問いを持って授業に臨ませるよう

にしている。予習は生徒のタブレット端末内のアプリ「Math Navi」を活用し、授業内容の例や例題の解説動画をそれぞれが視聴し、授業においてその取組状況を確認したり活用したりすることにより、生徒が数学的な見方・考え方を働かせやすくなることを目指している。また、予習を通して事前に分からないことを明確にさせることで、「問い」を持って授業に臨ませることができると考える。

授業の後半には発展的な問いを新たに立て、それを全体で共有し、個人で解決させたり、小集団で解決方法を確認させたりしている。この時の学び合い活動では単に解き方を教えるのではなく、なぜそのような解法なのかを考えることも重要である。自分たちで立てた問いに対して、他の生徒と協働的に探究することができれば、数学の本質に迫ることができると考える。

習熟度別の少人数指導ではあるが、生徒一人一人の学習の進捗状況は様々であり、深い学びが実現しているかどうかを知るためには、個別の実態把握が不可欠である。そしてその把握は、生徒自身や他の生徒も目に見える形で表すことができれば、協働的な学びはより効果的になると考えられる。そこで、一人一人の学習ログを作成し共有しながら授業を進めている。

予習などを通して問いを立て、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、深い学びを実現していきたい。

6 指導と評価の計画（23 時間）

小単元等	授業時間数	
1. 相似な図形	9 時間	23 時間
2. 平行線と比	8 時間	
3. 相似な図形の面積と体積	5 時間	
4. 単元のまとめ	1 時間	

小単元「1. 相似な図形」における各授業の指導のねらい、生徒の学習活動及び重点、評価方法等は次の表のとおりである。また、授業の最後に、学習を振り返って、分かったことや疑問点などを記述することを通して、今後の学習を見通し、新たな問いを立てることができるようするために、生徒に学習ログを記録させている。

小単元1（9時間）の指導と評価計画

時間	ねらい・学習活動	重点	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> 平面図形の相似の意味を理解し、対応する部分の長さや角の大きさの関係を知る。 既習内容の確認を基にして、図形の相似を定義し、本単元の学習を見通すことができる。 	知① 態①	行動観察
2	<ul style="list-style-type: none"> 相似比の意味を知る。 	知①	行動観察
3	<ul style="list-style-type: none"> 相似な位置にあることの意味を知る。 ある図形と相似な位置にある図形をかく。 	知①	行動観察
4	<ul style="list-style-type: none"> 相似な図形の辺の長さを、対応する辺の比が等しいことを使って求めることができる。 相似な図形の辺の長さを、とより合う辺の比が等しいことを使って求めることができる。 	知①	行動観察
5	<ul style="list-style-type: none"> ある三角形と相似な三角形をかくためには、何が分かればよいかを考える。 三角形の相似条件を確認する。 	思①	行動観察
		知①	行動観察

6	・ 2つの三角形が相似かどうかを、三角形の相似条件を使って判断する。	思①	小テスト
7	・ 三角形の相似条件を利用して、図形の性質を証明する。	思①	行動観察
8 (本時)	・ 直接測ることが難しい距離や高さを、縮図を利用して求める。 ・ 相似な図形の性質を理解し、生活や学習に生かそうとする態度を養う。	思② 態②	行動観察
9	・ 相似な図形に関する練習問題に取り組み、これまで学習してきたことがどの程度身に付いているか自己評価できるようにする。	態③	ノート記述

7 本時の指導

(1) 学習課題 相似の考え方を利用して、城南中学校の校舎の高さを求めよう。

(2) 目標

○ 直接測ることが難しい校舎の高さを、相似の考えを利用して求める方法について考察する力を身に付ける。

○ 協働的な学びを通して、粘り強く課題を解決する態度を養う。

(3) 準備物 タブレット 大型ディスプレイ

(4) 本時の展開

学習活動 (形態)	時間 (分)	○学習内容 ・ 主な発問と予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◎評価の観点 (方法)
1 予習してきた内容を確認する。(全体)	5	○ 池をはさんだ2地点間の距離 AB の求め方を確認する。	○ 予習の段階で問いやつまづきがあるか確認する。
2 予習してきた内容に関する問題を解く。 (個人→小集団)	5	○ 縮図を利用して距離 AB の長さを求める。	○ 答え合わせ後、時間を取り分らなかったところを共有し解決に導く。
3 問いを共有し本時の課題を確認する。(全体)	2	相似の考え方を利用して、城南中学校の校舎の高さを求めよう。	
4 本時の内容の問題を解く。 (個人・小集団)	15	○ 思考の流れに沿った複数の問題を出題し、個人で解いたり友人と相談したりして解決する。 次の問いに答えなさい。 (1) 校舎から 50m離れたところから校舎の頂点を見つめてみたところ、 \circ° のところで頂点を見ることができた。 (2) 500分の1の縮図をかく。 (3) 校舎の高さを求めよう。	○ 事前に問いをロイロノートに提出させる。 ◎ 既習事項を活用するとともに、他者の意見から考えを深めることができたか。 (観察) ○ 学習ログが活用できるように支援する。

5 新たな問いを立てる。 (小集団)	5	○ 自分たちで問いを考える ・ 三角定規を利用して求められないか。 ・ 影の長さを利用して求められないか。	○ 複雑すぎる問いにならないように留意する。
6 新たな問いを解決する。 (小集団)	15	○ 各グループで立てた新たな問いに対して、個人で解いたり友人と相談したりして解決する。	◎ 具体的な場面を考えるとともに、他者の意見から考えを深めることができたか。(観察・ノート)
7 まとめと振り返りを行う。 (全体)	3	○ 授業のまとめを振り返りシートに記入する。	

8 評価の視点

【数学的な見方・考え方を働かせて課題を解決する様子】

- ・ 既習の学習内容と結び付けたり、事象を数理的に捉えたりして、数学的な問いを見だし解決し、それを他の場面で活用することができる。
- ・ 相似な図形に着目し、順序よく考えたり根拠を明らかにしたりして、論理的に思考し適切に表現することができる。

【協働的に課題を探究している様子】

- ・ 学習ログを活用しながら課題解決のための見通しを持ち、自分で考えたり友人と相談したりして、よりよい解法を探究することができる。
- ・ 他者の意見を尊重し多様な考えを認めることで、互いに考えを深めることができる。

9 研究の視点

【深い学びを実現させるための指導の工夫】

- ・ 予習から始まる授業デザインにより、課題を自分事として捉え、よりよい解法を探究させることができたか。

(K-ア 学習内容と日常生活・社会とのつながりを考えさせる工夫
 L-ア 子ども自身が立てた学習課題
 M-ア 考えの根拠を明確にした説明)

- ・ 学習ログの共有は、個別最適な学びと協働的な学びの充実に役立てられたか。

(L-ウ 学習課題・問題を追究するための見通しを持たせる工夫
 N-オ 次の課題が生まれる振り返りの工夫と共有)